

統計学 練習問題

第 20 回 統計的推定 (7)

2014 年 6 月 23 日

以下の各問の解答の文章を完成させよ。ただし、[] には式、___ には語句、 には数値が入る。

問 1 2014 年 6 月に NHK 放送文化研究所が実施した世論調査の結果、安倍内閣の支持率は 52% であった。この調査のサンプル数は 1046 人である。全有権者における内閣支持率を信頼係数 95% で区間推定せよ。

(解答) [] が _____ 分布にしたがうので、母比率 p の 95% 信頼区間は
[] $\leq p \leq$ []

となる。 p の代わりに \hat{p} を用いてこの式を計算すると
(途中の計算をここでおこなうこと)

() となる。

よって全有権者における内閣支持率は % から % の間であると推定できる。

問 2 日本全国全世帯の平均年収を調査するために、標本調査をおこなう。この調査の結果が、信頼係数 95%で、誤差 5 万円以内におさえたいとすると、必要な標本の大きさを求めよ。ただし、過去の同様の調査の結果から、日本全国全世帯の平均年収の標準偏差 $\sigma = 300$ 万円であることがわかっているとす。

(解答) 標本誤差 $|\bar{x} - \mu|$ の許容限度を E とすると、母平均 μ の区間推定を信頼係数 95%でおこなうときの必要な標本の大きさは $\left[\quad \quad \quad \right]$ である。この式を計算すると
(途中の計算をここでおこなうこと)

$n =$ となる。よって 世帯調査すればよい。

問 3 内閣の支持率を調べるために、世論調査をおこないたい。この調査の結果を信頼係数 95%で、誤差を 2%以内におさえたいとすると、必要な標本の大きさを求めよ。

(解答) 標本誤差 $|\hat{p} - p|$ の許容限度を E とすると、母比率 p の区間推定を信頼係数 95%でおこなうときの必要な標本の大きさは $\left[\quad \quad \quad \right]$ である。いま p について何の情報もないので、 $p =$ を用いてこの式を計算すると
(途中の計算をここでおこなうこと)

$n =$ となる。よって 人調査すればよい。